

地域連携軸の展開について（論点）

I. 地域連携軸の定義等

- ・全国各地域の市町村などが、都道府県境を越えるなど広域にわたり連携することにより、軸上の連なりからなる地域連携のまとまりを形成し、全国土に展開するもの。

(1) 位置付け

- ・「21世紀の国土のグランドデザイン」における4戦略^()の1つ
 多自然居住地域の創造
 大都市のリノベーション
 地域連携軸の展開
 広域国際交流圏の形成

(2) ねらい

- ・都市圏間の連携で地域の高次機能を充実し、相互利用
- ・全国土で高次機能を利用できる環境の実現
- ・選択可能性の高い暮らしの実現と新しい価値の創出

(3) 視点

- ・機能分担の明確化と地域の資源や基盤の有効活用のためのプランづくり
- ・民間主体の参加と連携
- ・単一の地方公共団体での「フルセット主義」からの脱却 等

(4) 地域の取り組む施策（例）

- ・観光資源・施設のネットワーク化による広域観光ルートの形成
- ・地域間の役割分担の下で空港等の交通拠点やそれらを連絡する道路の効率的整備と有効活用
- ・複数の医療機関の広域的連携と役割分担による高度医療サービスの提供
- ・複数の地方公共団体間で質の高い公共施設等の共同整備、分担整備 等

(5) 国の施策

- ・交通・情報通信基盤等の基幹的な基盤の整備
- ・高次機能の充実に向けての地域間の広域的連携を促す施策 等

II. これまでの地域連携軸の取組みの評価

(1) 主な地域連携軸調査に対する評価調査結果のポイント

- ・ 構想へ積極的に参加しているとの回答が5割強あり、連携・交流が深化したとの回答は4割強。
- ・ 構想によって最も促進された内容は、観光ルートの整備。
- ・ 現在参加している構想には今後も積極的に参加していくとの回答が多いが、新たな構想の参加に対しては否定的。

(2) 個別構想に対するヒアリングの概要

【取組状況】

- ・ 修学旅行誘致促進。
- ・ 観光モデルコースの策定。
- ・ 広域連携・交流促進支援。
- ・ 観光情報の発信。
- ・ 交流の集いの開催。
- ・ 交流事業経費の一部助成 他

【今後の課題とされている主な点】

- ・ 推進団体の将来的な方向性が定まっていない。
- ・ 圏域市町村や、企業、住民の主体的な取組が実現していない。
- ・ 構想の啓発活動。
- ・ 実施事業の精査。
- ・ 事務局のあり方。 他

(3) T・TAT 地域連携軸構想調査結果のポイント

- ・ T・TAT 地域連携軸を例にとり、府県を越えた広域的連携手法を開発することを目的とした調査。
- ・ 同連携軸上において、以下の点を念頭に置いた地域観光振興策の作成・実施。
 - 一般国道（ローカル国道）を前提
 - 既存の地域資源の活用
 - 地方公共団体・NPO・地元住民・観光客など多様な主体の参加
- ・ 観光マップ（スローライフマップ）の開発。

III. 調査結果から読み取れる地域連携軸構想の課題

- ・地域連携軸構想の推進活動に関して連携施策のアイデアが欠如している例が見られる。
- ・他の連携軸構想における施策の成功・失敗事例情報を得る手段に乏しいとの意見がある。
- ・構想に関する意識が地域住民、行政職員ともに高くない例が多い。
- ・ボランティア団体、NPO 法人といった多様な主体の参加が実現していない場合が多い。
- ・事務局の運営基盤が脆弱なところがある。
- ・ハードのインフラの整備のみを目的としており、活動自体が停滞している例もみられる。
- ・行政サービス面での連携の例が少ない。

IV. 論点

- (1) これまでの地域連携軸の取り組みをどう評価するか。
- (2) 地域連携軸構想をさらに推進するとした場合、どういう対応が必要か。
 - ・情報発信・フィードバック¹
 - ・交通・情報通信基盤等の基幹的な基盤の整備
 - ・地方公共団体による構想や計画の策定に対する支援²
 - ・多様な主体の参加

¹現在、国土交通省ホームページに地域連携軸専用ページ (<http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/renkeijiku/index.html>) において、主な地域連携軸構想の概要、地域連携軸構想に関する評価調査の結果などを公表している。

²従来より、新全国総合開発計画推進調査の地域支援基礎調査 などを活用し、地域の広域的な連携を支援してきたところ。

「21世紀のグランドデザイン」を具体的に推進し、地域自立の基礎づくりを促進するために行う、各地域における多様な地域連携等の形成にかかる施策の検討などのために行う、基礎的な各種課題に関する調査